

進路指導部だより



# 道しるべ

天王みどり学園 進路指導部

第143号【中学部版】

平成30年6月29日発行



## 「湯たんぽ」のような支援の構築を



中学部主事 武石 博行

「湯たんぽのような支援」…私が教職駆け出しの頃、県立比内養護学校（現：比内支援学校）元校長で、今はなき 湊 慶吉 先生から教えていただいたことです。

真冬の寒いときに布団に入るとひんやりし、なかなか体が温まらない状況を改善するために湯たんぽが使われます。布団乾燥機や電気毛布などの普及、また布団そのものの高品質化もあり、今ではあまり見かけなくなりました。

湯たんぽは最初は重宝します。しかし、だんだん体が温まってきて自分の体温のみで十分温かくなると、いつの間にか布団から放り出されてしまいます。布団に入りたての頃は小学部に該当します。冷たい布団を強力に温める湯たんぽのように、手厚い支援が必要です。湯たんぽが布団から放り出されている頃は高等部の段階です。中学部、高等部と学部が進むにつれ、**湯たんぽの役割が減ってきてやがては不必要となるように、支援の量と質を変えていく**ことの大切さを意味しています。

ところで、どこの特別支援学校でも高等部で現場実習を行っています。実習を終えて帰宅したことを学校に電話で報告することを「安着電話（安全に自宅に着きましたの意）」とか「帰着電話」と言います。その際、担任が実習の内容や心配事などを聞き取り、必要に応じてアドバイスしたり励ましたりします。

別の学校の高等部にいたときのことですが、安着電話の様子を聞いていて1年生も3年生も同じように対応していることに気付きました。企業などへの一般就労であれ、福祉サービス提供事業所への福祉就労であれ、学校を卒業し社会人として働いて帰宅したときに、安着電話をだれが受けるのでしょうか。不安や心配を抱えて初めての現場実習に向かう高等部1年生には、丁寧な聞き取りとアドバイスや励ましがが必要です。しかし、もうすぐ社会人となる高等部3年生には、安着電話をなくしていく（アドバイスや励ましがなくてもしっかりと実習に向かえる）ような対応が求められます。そして、困ったときには自分から連絡し、相談する力を培う必要があります。さっそく学部会で安着電話の意義と教師の対応を確認しました。

よかれと思って一生懸命行っていることでも、もしかしたら熱い湯たんぽがいつまでも必要という状況をつくっていることがあるのかもしれない。私たちの支援が児童生徒の成長や発達を妨げないように、支援の量と質を常に検討したいと思っています。



# 中学部 前期校内実習 (5/21~5/25)

## 「働くこと」を学ぼう!

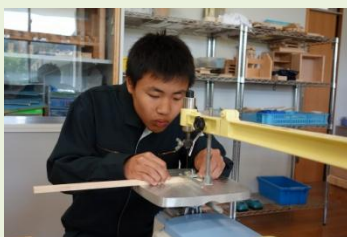
### 紙の工房

- ギフトボックス作り
- ・ 紙の裁断
- ・ 段ボールはがし
- ・ ステンシル



### 木の工房

- 木のマグネット作り
- ・ 木の裁断
- ・ やすりがけ
- ・ マグネット部分の穴あけ



### 風の工房

- アルミ缶・ペットボトルリサイクル
- ・ 洗い、つぶし
- ・ ネック切り
- 油取りパック作り
- ・ 紙のミキサーがけ



### 土の工房

- 皿作り
- ・ 粘土の再生
- ・ 粘土を伸ばす、こねる



### 中学部のねらい 「最後まで自分で」

校内実習では、ねらいに沿って、「仲間と共に最後まで」実習に励むことができたでしょうか？

大きな声であいさつや報告をしたり、自分から準備や片付けに取り組んだり、初めは見られなかった行動が、実習を通して見られるようになりました。

中学部では、働く体験を繰り返して、校外で貢献する力の基礎を身に付けるために実習を行っています。後期校内実習も、自分たちの将来のためにがんばりましょう！



### 中学部のみなさん! レッツ・チェック!!



中学部段階で身に付けたいこと

- 周りの動きに合わせ、素早く行動する。
- 自他の安全に気を付けて行動する。
- 集中して物事に取り組み続ける。
- 自分で身だしなみを整える。
- 働くための基礎体力をつける。

参考：「進路の手引き」から

